

トヨタ災害復旧支援 (TDRS※) と 災害ボランティアセンター運営支援

※ Toyota Disaster Recovery Support



2024年10月19日

トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部
プログラム推進室 モビリティフォーオールグループ
諸留 逸

トヨタグループの被災地支援活動('18年~'23年)



3

グループ トヨタ単独	2018 西日本豪雨 ('18/7/7) 倉敷市 死者:59名 家屋被害:5857戸	2019 台風15号 ('19/9/9) 富津市 一部損壊:1124戸	2019 台風19号 ('19/10/12) 長野市 死者:2名 全壊・半壊 ・一部損壊:4514戸	2020 R2/7豪雨 ('20/7/4) 人吉市 死者:20名 全壊・半壊 ・一部損壊:3073戸	2021 R3/8大雨 ('21/8/15) 福岡県 死者:0名 床上浸水:540戸	2022 R4/3地震 ('22/3/17) 福島県死者:3名 家屋被害: 20,444戸	2023 R5/7豪雨 ('22/3/17) 秋田県 家屋被害: 7,777戸
(1) ボランティア 支援	倉敷 4日 30名	富津 1日 6名(東京ビル)	長野 7日 142名(本社)	コロナのため支援なし			秋田 福島 トヨタ東日本
(2) 災害VC (ボランティアセンター) 運営支援	倉敷 45日 延べ34名	君津 2日延べ3名 富津 30日延べ16名	長野 45日 延べ34名	人吉 32日12名 (ダイハツ:31日9名 TMK:29日延べ7名 トヨタ織機:10日3名)	久留米 (TMK:8日延べ6名 ダイハツ:5日2名)	南相馬 17日9名	久留米 TMK,ダイハツ他 秋田 24日6名
(3) モビリティ 支援	支援なし	千葉県 5市 (9/末-11/末)	7県(宮城、福 島、茨城、栃木、埼玉、 千葉、長野) 21市町 (11/初-2/末)	2県(熊本、大分) 9市町村 (7/中-12/末)	福岡県 久留米市 (8/中-)	支援なし	久留米 豊橋 秋田 TMK,DH他

災害ボラ: 200名以上、災害VCo: 100名以上

‘24能登半島地震 トヨタグループ人的支援実績



4

＜トヨタおよびトヨタグループのボランティア活動＞

1. 災害ボランティア：避難所運営のサポート(2か所)、家財片付け、がれき撤去等(1か所)
 - ・派遣地：志賀町、輪島市
 - ・派遣人数：129名（トヨタグループ合計232名）
2. 災害ボランティアコーディネーター：センター立上げ支援、センター運営支援
 - ・派遣地：中能登町(1/下旬-3/末、志賀町(1/下旬-3/末)、輪島市（3/24-9/18）
 - ・派遣人数：83名（トヨタグループ合計のべ302名）

＜トヨタグループのボランティア支援状況＞

(最終実績、事務局除く)

	志賀町	中能登町	輪島市
①災害ボランティア	トヨタ：115名 日野：46名 他57名(紡織,ジエイト,愛知製鋼, 車体,豊通,アイシン,合成,ホーム)	—	トヨタ：14名
②災害ボランティア コーディネーター	トヨタ：23名 豊田自動織機：14名	トヨタ：23名 TMK：32名 TMEJ：20名 ダイハツ：7名	トヨタ：37名 デンソー：56名 TMK：28名 TMEJ：16名 ダイハツ：26名 織機：10名 日野：10名

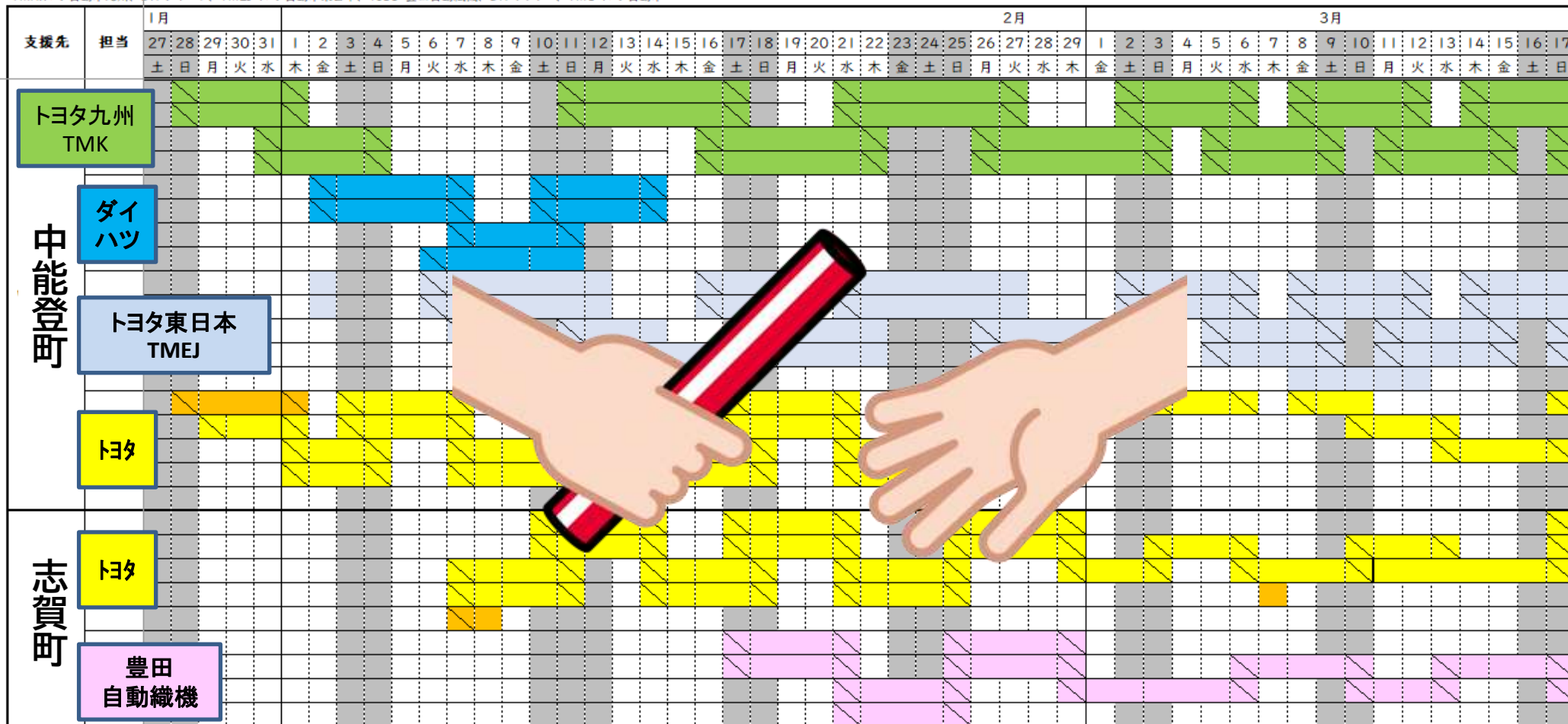
トヨタグループ災害VC支援日程表（能登半島支援の一例）



5

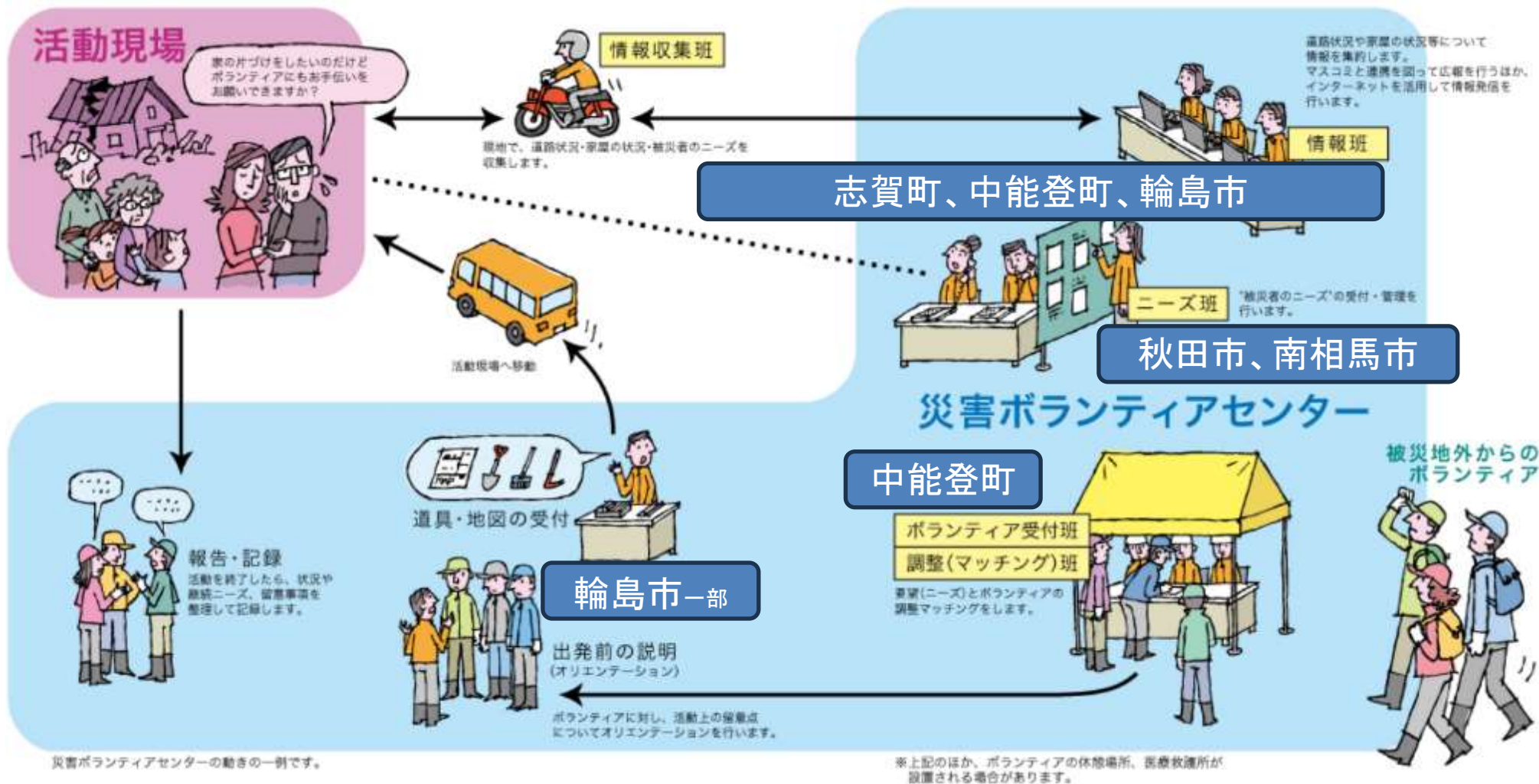
途切れなくバトンを繋ぐことが重要（引継ぎはグループ内で完結）

TMK:トヨタ自動車九州、DH:ダイハツ、TMEJ:トヨタ自動車東日本、TICO:豊田自動織機、DN:デンソー、TMC:トヨタ自動車



災害VCから求められる役割に柔軟に対応

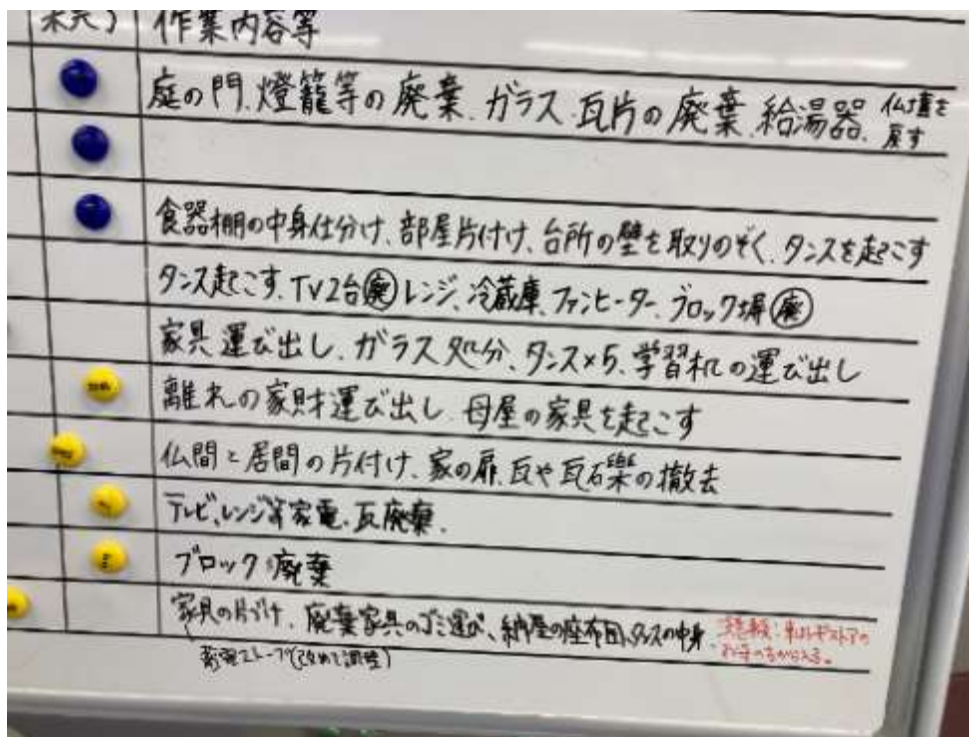
被災地社協様・支援Pと事前調整をした上で、役割を決めて支援を開始



災害VCの機能【1】情報・ニーズ管理

【情報・ニーズ管理】

被災者からのニーズ受付（**ニーズ票**への書き込み）、**データ入力・管理（キントーン）**を実施



【現地調査】

ニーズがあった被災宅に実際訪問し、聞き取り・写真撮影等を実施
ボラ活動の為の各種情報収集（時にはお断りのケースもあり）



〔志賀町〕



〔中能登町〕

災害VCの機能【3】資機材準備・送り出し

【オリエンテーション・送り出し】



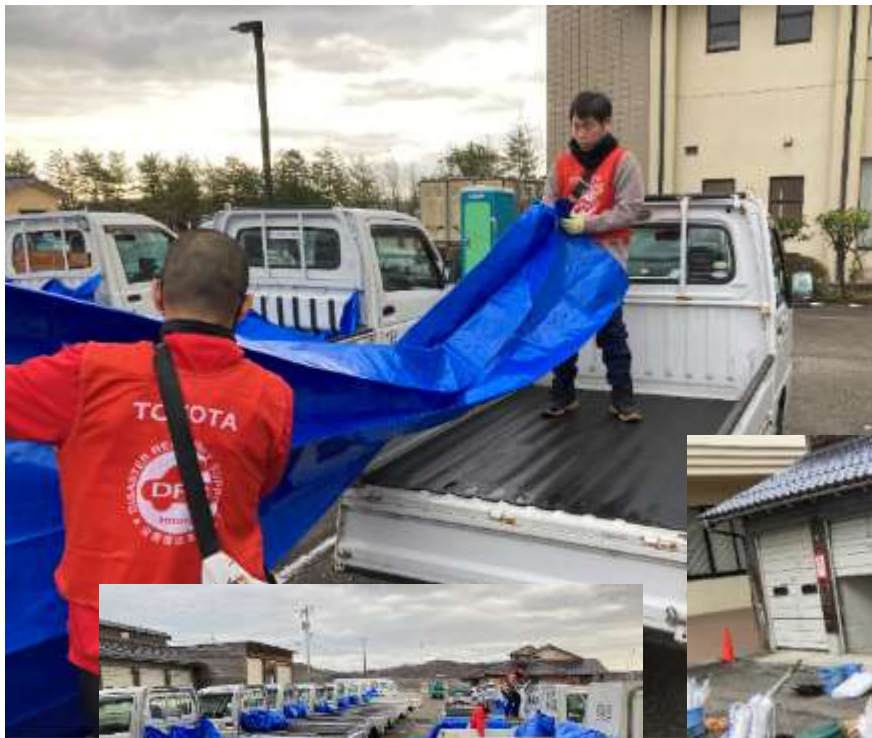
〔輪島市〕



9月大雨直後の様子

【資機材準備】

ボランティア活動に必要な資機材・車を準備
(不足物の調達・倉庫管理、ボランティア活動毎にセット)



[輪島市]



[志賀町]

1. 活動参加者

- ・ データ管理の重要性を感じた。
- ・ **社協職員の被災者に寄りそう姿勢**が勉強になり、職場での自信の姿勢を見直した。
- ・ 様々な立場の方と**“連携すること”の大切さ**・難しさを身をもって感じた。
- ・ 被災者様からの質問に即答出来ない。 →研修を企画、FAQ作成

2. 事務局

- ・ 経験値を積むことで、より活動の幅や深さを拡大（水害・地震対応）
- ・ **南海トラフ地震対応を意識した知見の蓄積**（ネットワーク、人材育成）
- ・ 活動**終了タイミングの見極め**（社協への引継ぎ、ニーズ数）

〔グループ連携活動の目的〕

- ・グループのリソースを有効活用して、相互研鑽による質向上を図りながら、サステナブルな社会貢献を実現
- ・積極的な発信により内外への認知度向上、グループ企業価値向上

〔TDRS（トヨタ災害復旧支援）の想いと今後の活動〕

- ・現地の復旧のスピード感に合わせ、求められる役割・責任を果たす
- ・より信頼されるように、質・量共に強化
 - ①事前研修のグループ企業での標準化
 - ②支援者の能力アップ：IT(キントーン)支援強化、プロボノ
- ・活動は自分の成長にもつながる「人材育成」の目的も意識
- ・事務局がもっと積極的に問題解決に絡む

支援者・グループとしての自覚・責任をもって全ての判断を

END